

多賀城 多賀城市市川字城前

大和朝廷が蝦夷を制圧するため、軍事的拠点として築いた城柵です。『日本後紀』に登場します。平城宮跡（奈良県）、太宰府跡（福岡県）とともに日本三大史跡に数えられています。陸奥国府のほか、鎮守府が置かれました。現在は国の特別史跡に指定され、政庁跡や城碑、復元された塀などが残されています。平安時代初期になると、鎮守府は他へ移ることになりますが、国府としての機能は南北朝時代まで続くことになりました。発掘調査により、周囲には築地塀や柵が張り巡らされていたことが分かっています。その中央部には政治が執り行なわれた政庁が設けられており、現在は多賀政庁跡として復元されています(パンフ)。



館前遺跡(赴任した国司の館跡)で多賀城跡の南東 200m にある(現 JR 国府多賀城駅近く)



正面にある外郭南門



石柱



政庁南大路の石垣が続く



政庁に繋がる重要な道路で幅が 23m あり途中に排水用の暗渠もある



正殿



政庁復元型